

オウトウのブランド品種の育成に向けて

農林総合研究センターりんご試験場 県南果樹研究センター

現在、国内でのオウトウの主力品種は「佐藤錦」で、本県でも栽培面積の半分を占めています。「佐藤錦」は良食味ですが、元々果実の大きさが中位であり、収穫期後半にはウルミ果（果肉が水浸状になる障害）が発生し、商品価値が低下するなどの問題があります。このため、「佐藤錦」並みの良食味を保ちながら、大玉で日持ちの良い本県独自のブランド品種を育成するため、平成9年度より育種研究に取り組んでいます。

現在の主な育種目標は、① 1果重10g以上で「南陽」、「サミット」並みの大きさ、②高品質で「佐藤錦」並みの良食味、③ 果肉が硬く、日持ちが良く輸送性があること、④ 自家和合性で受粉樹を必要としないこと等です。

平成9年度より延べ約120組組み合わせの交配を行い、これまでに約1200個体の実生を育成しています。平成17年までに約500個体について果実品質、

食味を中心に調査し、5系統を優良系統として選抜しました。そのうち、4系統については県内の生産現場で地域適応性を検討しています。これらの系統は「佐藤錦」より早く収穫できるものや、遅いものであり、いずれも「佐藤錦」と受粉和合性があると推測されます。データーの蓄積がある3系統の特性は表のとおりで、全般に10gに近い大玉で、良食味系統です。今後は栽培特性等を把握しながら2次選抜を進め、品種登録への絞り込みを図る予定で、本県独自のブランド品種となることが期待されます。



有望系統 B

<有望系統の特性>

系統名及び品種名	収穫日(月/日)	1果重(g)	糖度(%)	備考
A系統	6/23	10.2	14.5	軟肉、早生大玉
B系統	6/30	10.7	15.5	硬肉、果汁多、酸味少ない
C系統	7/ 8	10.6	17.0	硬肉、豊産性、酸味少ない
紅さやか	6/21	5.2	13.9	
佐藤錦	6/29	7.5	17.4	
南陽	7/10	11.0	14.3	

注) 数値は平成16～18年の3カ年平均